

成長戦略の成果が出るまでには何年もかかるように思える。それまで「アベノミクス」で持ち上げてきた経済は好調を続けていることができるのだろうか？
こうした質問を受けることが多い。
たしかに、雇用改革にしても、特区の制度にしても、医療やエネルギーの規制緩和にしても、サプライ（供給）サイドに働きかけるものである。こうした政策がより成長力のある分野に資本や労働を動かし、イノベーションを起こすためにはそれなりの時間がかかるだろう。サプライサイドから成長戦略を見ると、即効性には乏しいようにも見える。



伊藤元重の

ニュースな見方

る。

しかし、今回のアベノミクスにおける成長戦略の重要な点は、ダイヤモンド（需要）サイドから、投資拡大に働きかけていく点である。第一の矢、そして第二の矢はすでに放たれている。それで経済の先行きに明るい兆しが見えてきた。

「投資せぬリスク」発信を

重要なことはこれを民間の消費や投資につなげること、需要をさらに拡大していくことである。

民間の需要が拡大していけば、景気を刺激し、それ

が生産や所得の拡大につながる。さらに需要を拡大するという乗数プロセスを誘導し、と。

家計にも企業にも潤沢な貯蓄資金があふれている。企業については、もう少しデフレマインドは、日本

これは、デフレから脱却

刺債務や過剰なバランスシ

めてしまった。デフレから

脱却することから期待

できることは、そうし

自分のところだけ守りに入

っているだけだ。多くの

企業がそう考えればしめた

ものだ。その意味では、成

長戦略が成功するかどうか

の大きな鍵は、成長戦略を

重視する政府の姿勢をより

政府成長戦略 成功の鍵

「日本経済にはカネはジャブジャブにある。問題はリ」

「カネがジャブジャブにある」という表現はこの

企業の投資マインドを刺激

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。